

支える側が支えられるとき

～ 認知症の母が教えてくれたこと ～

講師 **藤川 幸之助** さん
詩人・児童文学作家



講演概要

アルツハイマー型認知症を患った母との24年間の歩みを通して、認知症への不安や家族の葛藤、介護のあり方について、詩の朗読を交えながらお話しします。介護を振り返る中で、支えていたはずの私自身が母に支えられ、育てられていたことに気づいた体験をお伝えします。

扉
藤川 幸之助

認知症の母を
老人ホームに入れた。

認知症の老人たちの中で
静かに座って私を見つめる母が
涙の向こう側にぼんやり見えた。
私が帰ろうとすると
何も分からないはずの母が
私の手をぎゅつとつかんだ。
そしてどこまでもどこまでも
私の後についてきた。

*

私がホームから帰ってしまうと
私が出ていった重い扉の前に
母はぴたりとくっついて
ずっとその扉を見つめているんだ
と聞いた。

それでも
母を老人ホームに入れたまま
私は帰る。
母にとつては重い重い扉を
私はひょいと開けて
また今日も帰る。

『満月の夜、母を施設に置いて』
(中央法規)

開催情報

日時 令和8年11月5日(木) 開場 13:00 / 開演 13:30～16:00
会場 アルカスさせぼ中ホール(佐世保市三浦町 2-3)
参加費 無料 / 定員 500名(先着順・要事前申込)



↑ 申し込みはこちらから